

令和元年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」

実証実験 実施報告書

近畿大学 社会連携・国際学部合同チーム

1.1. はじめに

本報告書は、福島県が実践している「大学生の力を活用した集落復興支援事業」における福島県伊達郡川俣町福田地区での調査過程から研究成果まで記したものである。

構成としては、

第1章は川俣町役場の人とのミーティング内容と昨年の最終案のサイクルツーリズムをどのように行うかを記している。

第2章では第1回目の訪問（6月14日～6月17日）までの訪問での活動記録を記している。

第3章では第2回目の訪問（8月19日～8月25日）での訪問で、実証実験を行った内容などの活動記録を記している。

第4章では第2回訪問の後の活動について記している。

第5章では第3回目の訪問（1月18日～1月19日）での訪問での、ボランティアについて記している。

第6章ではこれまでのあらすじを示した後、今後の展望を記している。

1.2. 目的

本プロジェクトの目的は昨年出た最終案である、サイクルツーリズムを中心に、福島県伊達郡川俣町福田地区の地域創生、活性化のための実証実験を行うことである。

1.3. 研究方針とチーム構成

我々は、近畿大学国際学部、総合社会学部、経済学部で構成されており、目的である地域創生、活性化のための実証実験を行うことである。

1.4. 背景

チーム構成を活かした提案を考えながら、人口減少や交通アクセスの改善などの社会問題に向き合った。また、東日本大震災の影響、例えば風評被害により偏見が植えつけられるといったこと。福島県川俣町もその被害を受ける地域の一つでした。しかし、それを払拭すれば再興できるといった単純な構造でなかったことが、実地調査や文健調査をしていくにつれて理解できたように思われる。

私たちにできることは何か。そして、何よりも地元住民の方々が動いてもらうにはどうすればいいのかどちらかの一方通行ではいけないように感じた。双方が頑張りたい、動きやすいと思ってもらえるような提案づくりを心がけた。

1.5 理由

「川俣町までのバスって少なく、定期代も高い」

サイクルツーリズムを提案内容に掲げた理由として、「アクセスの悪さ」を挙げられ、これをサイクルツーリズムによって改善できないかを検討した。

また、福島県内でも複数のサイクリングロードがあり、担当した福田地区では道路が比較的整っており、再整備の余地が少なく済むなどの観点から、サイクルツーリズムの取り組みやすさを裏付けられると考えている。

そして、「人口減少」に歯止めをかけるべく、サイクリング人口を筆頭に、関係人口を取り込んでいき福島県に、川俣町に、訪れてもらえるような魅力を作り出す。風評被害を取っ払うことを目的かつ大きな理由として考えている。

第1章

1. 川俣町役場の方とのミーティング内容
2. 昨年から引き続きサイクルツーリズムのその後の進展について記す。

1. 川俣町役場の方とのミーティング内容

昨年の最終案であるサイクルツーリズムについては、山道など自然豊かなコースがあるため面白いものができる、川俣町では自転車に乗っている人が少ないため珍しい景色になる、ただ走るだけでは面白くないため何かが食べられるほうがいい、舗装されていない道もあるためオフロードバイクもできる、BMXなどができそうな畑などもある、などの意見をもらうことができた。

また、朝ドラの「エール」のモデルになる古関裕而が川俣で20代を過ごしたなどの情報も聞くことができた。

2. 昨年から引き続きサイクルツーリズムのその後の進展について記す。

サイクルツーリズムを進めていくのにあたり、どこを拠点とするのか、どのような自転車

でサイクリングをするのかなどが話し合われた。拠点については、以前宿泊したおじま交流館を拠点にする案がでた。自転車については、次回の訪問でコースなどを検討し考えることになった。

第2章

第1回目（6月14日～17日）の訪問記録

目的、活動内容

1. 川俣町のさらなる理解を深めること
 - ① 教育委員会の方との面会
 - ② 町の方々との交流
 - ③ シャモ養鶏所の訪問
 - ④ おじま交流館の館長さんとの意見交換
 - ⑤ 石田サイクルの訪問
2. 次回の課題

1. 川俣町のさらなる理解を深めること

1-①教育委員会の方との面会時

基本的にはおじま交流館の利用状況・経営状況などについての質疑応答をした。おじま交流館をサイクルツーリズムの拠点とすること、その上で自転車の設置をしても大丈夫との許可を得ることができた。また、集客のために広告を作成してもよいとの許可も取ることができた。しかし、経営状況のかねあいでも泊人数が5人以上で予約しないと泊まることができないなどの問題がある。そのため、家族連れの宿泊客が法事の際にしか訪れないという問題もあるようだ。

1-②町の方々との交流

我々がサイクルツーリズムをすると聞いて、川俣～伊達市の間にある七つ森林道という道があることを教えてくださった。また、蛭は8月上旬ごろだということも教えてもらった。さらに、川俣の蚕農家では繭にする段階で終わり、その後は川俣以外の場所でやっていることや、斎藤さんの牧場で乳しぼりができることなども教えてもらった。

1-③シャモ養鶏場の訪問

今回訪問させていただいたシャモ養鶏場では、販路を確保するためにひなから成鳥まで一元管理しているようだ。この養鶏場の他にひなを飼っている養鶏場は2件ほどある。また、コスト面では1匹出荷するまでに約1000円の餌代がかかっている。一般団体であれば見学可能であるが、11月～3月は鳥インフルエンザの危険があるため見学はできないようだ。見学者はひなを手へのせることはできるようだ。しかし、この場所ではシャモの試食やお土産を買うことはできない。

1-④おじま交流館の館長さんとの意見交換

館長さんは「おじま交流館は地域の交流館として地域の方々に愛される場所にしていきたい」とおっしゃっていた。また、福島県以外からもたくさんの方が来てほしいともおっしゃっていた。

今現時点であるおじま交流館でのアクティビティを聞いてみると、4時間のハイキング(数名)、農業体験があるようだ。サイクリングをアクティビティ組み込んでも良いかという質問には、前向きに検討するとの回答を得た。上記のシャモ養鶏場で卵が余っていることだったので、おじま交流館でその卵を朝食に出すことも了承してもらった。

1-⑤ 石田サイクルの訪問

サイクルツーリズムを実施するにあたり、石田サイクルの方の意見を聞くため訪問した。

福島駅から川俣町に行くまでにトラックが多く走っているので注意が必要。川俣町だけでコースを完成させてしまうと少し物足りないかもしれないので、飯館の方に行ってアップダウンを入れたほうが面白いかもしれない。BMXのコースは福島県にあることも教えてくれた。また、ファミリー層をターゲットにすると、家族で川俣まで来て自転車に乗ろうとは思わないかもしれないというような意見も聞くことができた。

2. 次回の課題

今回の訪問で川俣の教育委員会の方にお話を聞き、今のおじま交流館の現状を把握する事ができたことは次に繋げることができるだろう。また、訪問前から案にあったサイクルツーリズムの拠点をおじま交流館に置くことのできることを得ることができたのは大きな一歩目である。しかし、サイクルツーリズムのコースや自転車の設置などの問題は残っている。

今後、コースを実際に考えることや、自転車の設置の費用などの交渉をすすめていかなければならない。また、サイクルツーリズムのコースには町の方々に教えてもらった七つ森林道なども入れることも検討する。おじま交流館に訪れて来てくれた方々に楽しんでもらうには、おじま交流館でのアクティビティの増加が必要であろう。したがって、次回の訪問までには追加のアクティビティの案を出す必要がある。

行程表

月日	場所	時間	行程	移動	備考
6月14日	福島駅	12:32	到着	新幹線	
	福島駅周辺	13:30	昼食		
	川俣町役場	14:30~15:30	ミーティング	レンタカー	おじま交流館の活性化について
	公民館	16:00	町の方と交流		顔合わせ・交流・意見交換
	宿泊場所	20:30	おじま交流館 到着		時間があれば蛍を見に行くかもしれない
6月15日	宿泊場所	9:00	出発		
	シャモ養鶏場	10:00	見学・意見交換	レンタカー	観光資源化についてヒアリング
	道の駅	12:30	昼食		
	蚕	14:00	見学・意見交換		観光資源化についてヒアリング
	福島駅周辺	17:00	夕飯		
	宿泊場所	21:00	体育館到着		
6月16日	宿泊場所	9:00	体育館出発	徒歩	
	川俣町中央公民館	8:00	開会式		参加者に川俣町の良いところをヒアリング
		12:30	昼食		
	川俣町	13:30~17:00	サイクリング実証	自転車	実際に事前に想定したサイクリングコースを走ってみる
	宿泊場所	18:00	到着	レンタカー	おじま交流館
		19:00	夕食		
	21:00~22:00	ミーティング			
6月17日	宿泊場所	8:00	朝食		おじま交流館
	おじま交流館	10:00~11:00	ミーティング		おじま交流館の従業員の方々と意見交換
	おじま交流館	12:00	出発		バスを利用して福島駅まで向かう
	福島駅	17:00	到着・出発	タクシー	東京駅を經由して新大阪駅まで戻る

第3章

第2回訪問（8月19日～25日）の訪問記録

目的、活動内容

1. サイクリングアクティビティの実証実験
 - ① サイクリングコース実証
 - ② 必要器具関係の確認、調査

2. おじま地区住民、並びに交流館ボランティアスタッフとの関係構築及びに業務協力
 - ① 地域住民サロンとPJメンバーの合同で行うたこ焼きサロンの実施
 - ② 図書、その関係スペース関連の整理、リニューアル
 - ③ 清掃業務
 - ④ 近隣農家(菅野さん宅)とPJメンバー共同の農業体験型の作業協力
 - ⑤ 交流館館長 佐藤さん、川俣町役場総務課 木村さんとの長寿山ハイキングコースの視察

3. HP制作、広報活動のための宣材資料収集
 - ① サイクリングコース及びにサイクリング活動の撮影
 - ② リニューアル後の図書スペース広報用撮影
 - ③ 現在利用可能な体験教室の活動風景の撮影
 - ④ 川俣町全体の魅力や観光地の撮影

1. サイクリングアクティビティの実証実験

1-①サイクリングコース実証

我々が思案、考察していたサイクリングツーリズムに使用するコースの実現性、具体性を検証した。

検証のため、事前にクロスバイクを2台、その他必要装備を購入、持参した。

自転車はスポーツサイクルの一種であるクロスバイクだが、できるだけ予算内で台数を揃えるため、比較的安価な自転車を購入した。(1台2万円程度) 6×1段変速のものを使用。ヘルメット、空気入れを持参。具体的測定項目は以下

- ・距離、高低差の測定とそこから導き出される難易度
- ・ルート途中の観光地や休憩地、主要目印や利用できそうな施設、設備の確認
- ・路面の状況、交通状況などの留意すべき事項や、予測しうるトラブルの確認
- ・普段スポーツサイクル経験のない20代(男女)を想定した試走

試走、検証したコースは計5コース。下記に難易度別で記載。

(上級) 長寿泉ルート,七ツ森林道駒桜ルート

(中級) ダム往復コース・川俣町市街地観光、名所巡りコース

(初級) おじまふるさと交流館近隣月館方面散策コース

結果

上級コースに関しては自転車の変速が足りず、勾配の激しい上り坂の際、かなり疲弊したことから、追加購入を行う際は変速に関して再考の必要あり。

中級コース、初級コースは共に大きな問題はなかった。

1-② 必要器具の確認、調査

今回の活動を通して、いくつかの発見を通して追加購入が必要な備品があることが判明した。

発見/懸念点

- ・ いくつかのコースでトンネルを走行する必要があるため、安全上ライトが必要なのではないか
- ・ 自転車活動中は軽装である必要があるため、形態や飲み物用のホルダーなどのつけることで利用者の負担を減らす努力が必要ではないか
- ・ 上級コースの急な勾配に対して利用者の負担を減らすため、より快適な自転車を購入すべきでは

といった意見を加味し、下記の品を検討することとする。

追加購入が必要な備品

→自転車メンテナンス用器具、自転車用ライト、携帯用ホルダー、飲み物用ホルダー

再考が必要な物

→自転車

サイクリングツーリズム実装のため追加で3台を購入予定だったが、購入品に関して再検討の必要あり

2. おじま地区住民、並びに交流館ボランティアスタッフとの関係構築及びに業務協力

- ① 地域住民サロンとPJメンバーの合同で行うたこ焼きサロンの実施
- ② 図書、その関係スペース関連の整理、リニューアル
- ③ 清掃業務
- ④ 近隣農家(菅野さん宅)とPJメンバー共同の農業体験型の作業協力
- ⑤ 交流館館長 佐藤さん、川俣町役場総務課 木村さんとの長寿山ハイキングコースの視察

結果

上記活動を通しておじまふるさと交流館業務に必要な人員の予測、来客が増えた場合の対策や必要な課題など、主に下記を発見した。

- ・地域で行われているサロンをおじまふるさと交流館で行うことでは既存の交流の場所移動にしかならず、周辺地域や福田地区の方々の交流促進のためには新しいサロンや体験教室といった形を通して集客する必要がある。
- ・新たなサロン開設のため、ボランティアの方の労働は増えるため、日程調整や新たな労働力確保などの課題が発見された。
- ・現在行われている業務を通して、力が必要な労働や大人数が必要な労働の際は人員が不足していると感じた。そのため、継続的に我々が訪問し手伝い続ける事が運営に大きく貢献できると考える。
- ・パッケージツアーの一部として、農業体験を取り込むことは現実的に可能と考える。提供側には謝礼金と労働力を、顧客には農業体験という形での価値を提供できると感じた。また、活動を大きくしていった末には、様々な形で地域住民と外部観光客との交流を通じて住民の方々の幸福度に貢献できるのではないかと期待できる。

行程表

月日	場所	時間	行程	備考
8月19日	新大阪駅	7:30	集合	
	福島駅	12:30	到着	
	川俣町役場	14:30	役場職員の方々へ訪問のあいさつ	役場職員、橋本様
	おじまふるさと交流館	15:00	到着・チェックイン	
		16:00	訪問中日程、活動についての打ち合わせ	交流館館長 佐藤様 近隣住民農家 菅野様
	おじまふるさと交流館	19:00～	夕食・宿泊	
8月20日	おじまふるさと交流館	7:30～	朝食の新施策、川俣シャモTKGの試食	
	おじまふるさと交流館	9:00～	・たこ焼きサロンの買い出し ・コース実証(長寿泉ルート)	
	おじまふるさと交流館	13:00～	たこ焼きサロン	おじま地区住民の方々
	おじまふるさと交流館	15:00～	農業体験、手伝い 図書整理作業、選別	菅野様
	おじまふるさと交流館	17:00～	夕食	
	一日目ミーティング	20:00～	活動の振り返り	
8月21日	おじまふるさと交流館	7:30～	朝食	
	おじまふるさと交流館	9:00～	BBQ体験準備&図書整理	レンタカー
	おじまふるさと交流館	14:00～	土慣らし&農業体験体験	トラック
	おじまふるさと交流館	19:00～	夕食	
	おじまふるさと交流館	20:00～	花火	
	おじまふるさと交流館	21:00	宿泊	
8月22日	おじまふるさと交流館	7:30～	朝食	
	おじまふるさと交流館	9:00～	館長との話し合い	佐藤様
	おじまふるさと交流館	12:00～	サイクリング実証実験	
	おじまふるさと交流館	16:00～	学生ミーティング	
	おじまふるさと交流館	19:00～	夕食	
8月23日	おじまふるさと交流館	7:30～	朝食	
	長寿山	9:00～	ハイキング	自転車
	おじまふるさと交流館	12:00～	従業員ボランティアの方々との交流	
	おじまふるさと交流館	13:00～	サイクリング実証実験	
	駒桜	15:00～	サイクリング実証実験	自転車
	おじまふるさと交流館	18:00～	夕食は買う	
	おじま支所前	19:34	出発	バス
	川俣合宿所とれんびあ	20:00	チェックイン・宿泊	
8月24日	川俣合宿所とれんびあ	9:30	出発	バス
	体育館	9:30～	フェンシング観戦(～13:00)	
	川俣支所前～おじま	10:30～	移動	
	おじまふるさと交流館	12:00	そば打ち体験	
	おじまふるさと交流館	14:30～	サイクリング実証実験	
	おじま支所前	18:22	出発	バス
	川俣合宿所合宿所	20:00	到着・チェックイン	
8月25日	川俣合宿所	8:30	出発	バス
	川俣町役場前	9:15	乗り換え	バス
	福島駅	10:01	到着	バス
	福島駅	11:16	出発	新幹線
	東京駅	12:48	乗り換え・昼食	新幹線
	新大阪駅	17:03	到着・解散	新幹線

第4章

第2回訪問後の活動、制作

本章では第2回訪問（8月19日から8月25日）後の大阪での活動や制作に関して記していく。

第2回目の訪問で行ったサイクルツーリズムの実証実験を通して、道路のコンディションや車の通行量などをもとにサイクリングコースを制作することができた。また、おじまふるさと交流館での自然体験やそば打ちなどの体験型アクティビティを実際に体験することもできた。

これらのパッケージツアーを、これからおじま交流館を知らないたくさんの人達に知ってもらうためにPR活動を行っていく方針を固め、プロジェクトのメンバーを2つに分け制作を行った。

- ① おじまふるさと交流館 Web サイト制作チーム
- ② PR用パンフレット制作チームの2チームに分けての活動を開始した。

① おじまふるさと交流館 Web サイト制作チームでは、今まで町外や県外の人たちが施設の概要や利用方法を知ることが難しかったのに加え、おじま交流館でサイクルツーリズムを知ってもらうためのホームページ制作

② PR用パンフレット制作チームでは、おじま交流館に宿泊した方に向けてサイクルツーリズムのマップ制作、サイクルツーリズムの張り紙の2つを制作した。



←サイクルツーリズムの張り紙

第5章

第3回（1月18日～19日）訪問記録

目的、活動内容

1. 台風等の自然災害の状況確認
 - ① サイクルツーリズムのコース確認
 - ② おじま交流館館長さんからのお話
2. おじま交流館館長さんとの意見交換
 - ① パンフレット、ウェブサイトについて
 - ② サイクルツーリズムの今後

1-①サイクルツーリズムのコース確認

（上級）長寿泉ルート、七ツ森林道駒桜ルート、（中級）ダム往復コース・川俣町市街地観光、名所巡りコース（初級）おじまふるさと交流館近隣月館方面散策コースの計5つのコースを確認した。コースの中で自転車が通行できない場所は特になかった。

1-②おじま交流館館長さんからのお話

台風の影響で最大 60 人の避難者がおじま交流館にいたと聞いた。また、11月1日までおじま交流館は避難所になっていた。運動場は冠水しおじま交流館の近くの川は氾濫していた。訪問時点では、ボランティアは必要なく仮復旧も進められていた。

2-①パンフレット、ウェブサイトについて

パンフレット、ウェブサイトの制作状況の報告を行った。パンフレットのデザインに問題はなかった。パンフレットにレンタサイクルの料金が500円と記載されているのに関しては、宿泊者には無料で提供できるほうが良いのでは、との意見をいただいた。

ウェブサイトの作成に関しては、サイクルツーリズムに関しての情報を載せること、宿泊予約は電話で行いたいため宿泊機能はいらぬとの意見を聞いた。

2-② サイクルツーリズムの今後

宿泊者以外の方も、おじま交流館を中心としたサイクルツーリズムを利用できるように、制作しているコースマップの配布、SNS・ウェブサイトでのPRを行う。おじまに宿泊している人だけがサイクルツーリズムを行うより、川俣町全体でサイクルツーリズムを行う人を増やしたいと館長さんからの要望があった。

行程表

月日	場所	時間	行程	移動
1/18	新大阪駅	7:30	集合	
	福島駅	12:30	到着	新幹線
	おじまふるさと交流館	14:00	到着・チェックイン	レンタカー
	おじまふるさと交流館	14:30	館長さんと話し合い	
	おじまふるさと交流館	16:00	サイクリング道確認	レンタカー
	おじまふるさと交流館	19:00	夜ごはん&宿泊&会議	
1/19	おじまふるさと交流館	7:30~	朝ごはん	
	おじまふるさと交流館	9:00~	ボランティア活動	
	おじまふるさと交流館	12:00~	昼ごはん	
	おじまふるさと交流館	13:00	ボランティア活動	
	おじまふるさと交流館	16:00	おじま出発	レンタカー
	福島駅	17:16	新幹線出発	新幹線
	東京駅	19:00	乗り換え&出発	新幹線
	新大阪駅	21:33	到着・解散	新幹線

第6章

これまでのあらすじ、今後の展望

昨年度の最終案であるサイクルツーリズムの実証実験を主に今年度は行った。

第1回目の訪問ではおじま交流館の館長さんとの意見交換を行い、サイクルツーリズムの拠点をおじま交流館にすることが決まり、第2回目の訪問ではおじま交流館の図書整理、清掃などのお手伝いをするとともに、サイクリングコースの実証実験を行った。サイクリングコースは計5つのコースを作成し、第2回目の訪問後にサイクリングコースのマップの制作を行っている。また、おじま交流館の館長さんからの要望である、ウェブサイトの制作も行っている。

第3回目の訪問では台風19号で被害があった場所の確認とサイクリングコースの被害状況の確認を行った。サイクリングコースの被害はなかった。

今後の展望

第3回目の訪問の際に、おじま交流館の館長さんと今後のサイクルツーリズムについて意見交換を行った。

サイクルツーリズムでおじま交流館の宿泊者の数を増やすことよりも、

- ① 宿泊者の満足度を上げる
- ② 川俣町でサイクリングを行う人を増やす

この2つを主に今後は取り組んでいく。

具体的には、宿泊者の満足度を上げるために、今年実証実験を行った軍鶏の卵かけご飯、たこ焼きサロン、バーベキューを提供していく。

川俣町でのサイクリングを行う人を増やすために、おじまを拠点としたサイクリングコースのマップを配布、SNSで川俣町のサイクリングのPR、新しいおすすめスポット、サイクリングコースのアップデートを行う。